

日本生物教育学会第 95 回全国大会(岐阜大会) 報告

日本生物教育学会第 95 回全国大会(岐阜大会)は、長良川の源流から河口までを開催地として岐阜県内および一部三重県内において以下の通り実施された。

主 催：日本生物教育学会

後 援：文部科学省、岐阜県教育委員会、岐阜市教育委員会、郡上市教育委員会

開 期：平成 25(2013)年 8 月 21 日(水)～23 日(金)

参加者：県外者 24 名、講師 5 名、大会実行委員 5 名

1 日目(8 月 21 日)

参加者の乗る J R 列車の到着遅延により集合時間を 15 分遅らせて 12 時 15 分に J R 岐阜駅前をバスで出発した。開催中の移動はすべてバスによって行なわれ、車中では小椋郁夫大会実行委員長によりバスの現在地周辺や目的地についての説明が行なわれた(図 1-A)。最初に訪れた郡上市高鷺町の、ひるがの分水嶺公園(図 1-B)においては長良川と富山湾に流れる庄川の分水嶺を見学した後、ひるがの高原において湿地帯の植物を観察調査した(図 1-C)。その際、講師の金古弘之元岐阜県立武義高等学校長から分水嶺とひるがの高原の植物に関する説明を受け、垂井町立東小学校(元岐阜県博物館学芸員)の井上好章校長からもひるがのの植物に関する説明を受けた。ひるがの高原ではミズバショウ(葉のみ)やサワギキョウ、ナガボノアカワレモコウ、ホソバナシュロソウ、アブラガヤ、イヌゴマなど数多くの植物とその生息環境を観察するとともに、高層湿原の環境を保全するための市当局の活動についても理解することができた。

その後、郡上市八幡町の長良川において「登り落ち漁」を見学し(図 1-D)、水生生物の調査を行なった。漁師の山田清一さんによる漁の仕掛け(図 1-E)および漁法の説明を受けることができ、アジメドジョウ(図 1-F)をはじめアカザやギギ、カワヨシノボリなどの魚のみならず、川岸の石に数多くのアユの食^はみ跡(図 1-G)を観察することができた。

18 時より 1 日目の宿泊のための旅館(せせらぎ街道の宿たかお)内において、郡上八幡博覧館の遠藤さんと熊沢さんから郡上踊りの「かわさき」、「春駒」ならびに「三百」が披露された後、参加者全員が「かわさき」と「春駒」の手ほどきを受けながら踊った。およそ 30 分間の指導を受けた末、全員が踊りをマスターすることができた(図 1-H)。夕食の後は、講師の岐阜市立梅林小学



図1 1日目から3日目の午前（一次解散）までの様子。A：バス内での説明， B：長良川分水嶺， C：ひるがの高原， D：アジメドジョウ魚の見学， E：アジメドジョウ魚の仕掛け， F：アジメドジョウ， G：アユの食み跡， H：郡上踊り， I：オオサンショウウオ， J：名和昆虫博物館， K：名和昆虫博物館内の昆虫展示， L：長良川における生物調査， M：採集した水生生物による水質調査， N：旅館屋上でのライトトラップ， O：長良川河口堰

校（岐阜県昆虫分布研究会編集局長）の藤原騏一朗教頭により，旅館のベランダに設置したライトトラップに集まる昆虫を調査した．灯下に集まった主な生物は，チョウ目：アライガ，スジキリヨトウ，オスグロトモエ，エゾギクキンウワベ等，カメムシ目：クサギカメムシ，ツマグロヨコバイ，ベッコウハゴロモ等，トビケラ目：ヒゲナガカワトビケラ等であった．集まった生物の傾向は，月が明るかったこともありガ類の集まりはわずかであったこと，付近には農地が広がり作物に由来するカメムシやヨコバイの仲間が多く飛来したこと，幼虫が水中にすむトビケラ類は直線距離で100m離れた長良川から飛来したと考えられることなどであった．

2日目（8月22日）

旅館を午前8時に出発し，8時30分より郡上市大和町の小間見川においてオオサンショウウオおよびその他の水生生物の調査を行なった．この調査は，文部科学省より特別委譲を受けた郡上市教育委員会より許可を受けたものである．この日は9時50分までの80分間の調査において3頭のオオサンショウウオを発見することができ（図1-I），すべての個体は体長および体重を測定した後，それぞれ元の生息地点に速やかに戻された．測定した3頭の体長および体重は表1の通りであり，いずれの個体も体長に対する体重の比は大きく違っていないことがわかった．また，オオサンショウウオの他にもカワヨシノボリ，カワムツ，アブラハヤ，アマゴおよびサワガニを観察することができた．

表1 観察することができたオオサンショウウオの体長および体重

個体	体長 (cm)	体重 (kg)
1	94	4.2
2	74	3.1
3	73	3.1

郡上市を後にして関市に向かい，岐阜県百年公園内の岐阜県博物館で後藤弘之館長からご挨拶をいただいたあと昼食を取り，約1時間かけて陳列館で岐阜県の自然の概要を理解するとともに特別に所蔵庫も見学することができた．

次いで岐阜市の岐阜公園に移動し，公園内にある日本で最も長い歴史を誇る昆虫専門の博物館である名和昆虫博物館（図1-J）を約30分間見学した（図1-K）．その後およそ45分間は自由時間とし，各自でロープウェーや徒歩で金華山およびその周辺の自然を散策した．中には金華山

の主要樹木であるツブラジイやシダ類のヒトツバを興味深く観察している会員もいた。

16 時 30 分から長良川に掛かる長良橋の下流の川原において水生生物の調査を行なった（図 1-L）。およそ 1 時間の調査において、ヒラタカゲロウ（63 頭）、ヒゲナガカワトビケラ（26 頭）およびカワゲラなどの昆虫のほか、カワヨシノボリ、アカザ、アユおよびオイカワなどの魚類、さらにヒルおよびウズムシ（プラナリア）などが採集された。岐阜県博物館の船戸智学芸員より、採集された生物を使った全国水生生物調査方法の説明を受け（図 1-M）、これによって調査地点の水質の判定を行なった。全国水生生物調査は岐阜県では独自にカワゲラウォッチングと呼んでおり、指標生物の数を測定することで水質を判定するものである。この調査により今回の調査地点は、川岸のよどんだ水には少し汚れた水に生息するヒラタドロムシはいるものの、総合的には大変きれいな水質であるという結果が得られた。

19 時より長良橋北詰に立地する旅館（石金）の屋上において夕食を取りながら懇親会を行ない、同時に長良川で行なわれる鵜飼を見学した。鵜飼が終了した後は屋上においてライトトラップを設置し（図 1-N）、昆虫の調査を行なった。灯下に集まった主な生物は、チョウ目：フタオビコヤガ、カゲロウ目：カゲロウ 5 種（合計約 100 頭）、コウチュウ目：コガネムシ等であった。集まった生物の傾向は、満月に加え町の照明もかなり明るく生物の集まりは多くなかったこと、調査した場所が地表から約 10m の高さがあったため、ある程度飛翔性がある生物が集まったと考えられること、調査地は長良川に面しておりカゲロウ類はそこから飛来したと考えられることなどであった。

3 日目（8 月 23 日）

午前 8 時に宿を出発し三重県桑名市長島町の長良川河口堰に向かい、9 時 45 分から 45 分間、河口堰（図 1-O）と堰に設置された魚道および資料館である「アクアプラザながら」を見学した。堰付近にはボラやニゴイの姿も見られた。2 名の参加者はここで帰途につき、その他の参加者は岐阜県海津市海津町の本曾三川公園に向かい、治水神社と揖斐川および長良川をおおよそ 30 分間見学し、洪水から人間を守るための薩摩藩の難工事について理解した。12 時 20 分に JR 岐阜駅に到着し、ここで一旦解散とした。

午後の参加者 16 名は車中で昼食を取った後、岐阜県本巣市根尾の地震断層観察館周辺（図 2-A, B, C）の地形および観察館内（図 2-D, E）をおおよそ 50 分間かけて観察・見学した。この館内には 1891 年 10 月 28 日に起った濃尾地震を中心とした地震に関する展示がされており、濃尾地

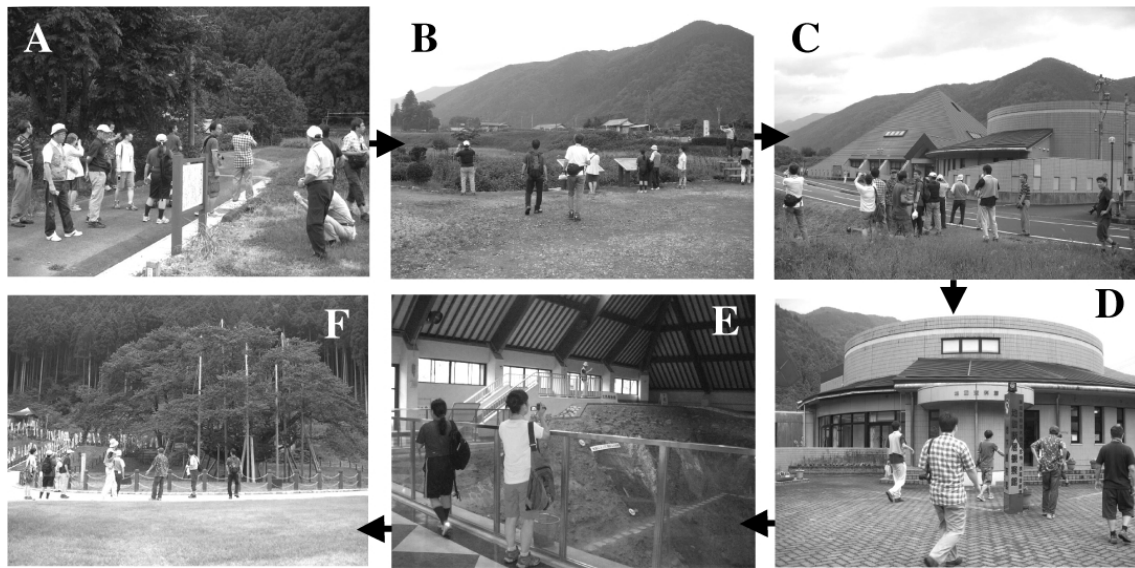


図2 3日目の午後（一次解散後）の様子。A：根尾の地震断層（横ずれ断層）の見学， B：根尾の地震断層（縦ずれ断層）の見学， C：地震断層観察館， D：地震断層観察館入口， E：地震断層観察館内のトレンチ， F：淡墨桜

震による垂直方向で6 mのずれを目の当たりに観察することができた。その後、樹齢1500年以上のエドヒガンザクラである淡墨桜（図1-F）を見学し、16時にJR岐阜駅で解散とした。

本大会は、長良川の源流から河口までの観察および調査を目的として行なわれたが、幸いにも3頭の野生のオオサンショウウオを調査することができたのを始め、多くの生物の観察や博物館などの施設の見学を行なうことができ、大会の目的を果たすことができたものと思われる。連日35℃を越える猛暑の中、ご参加くださった皆さま、講師の先生がた、ならびにご協力くださった諸施設のスタッフの皆さまに心より感謝の意を表します。

なお、本大会を企画・運営した会員は、次の通りである。ありがとうございました。

実行委員長：小椋郁夫（岐阜女子大学）

実行委員：宇野 学（多治見市立神浦小学校）

船戸 智（岐阜県立博物館）

廣渡洋史（岐阜保健短期大学）

池田雅志（岐阜保健短期大学）

高橋哲也（岐阜保健短期大学）

事務局：横井大輔（岐阜大学教育学部附属中学校）